

医療のICT化の推進

1. ICTインフラの整備

- 以下のインフラ整備により、**医療機関間の連携**や**研究開発**を推進。

(1) 医療等IDの導入

- ・ 医療保険のオンライン資格確認や**医療等IDの制度設計**等について、昨年12月に**とりまとめ**。
- ・ 2018年度から段階的運用開始、2020年までの本格運用に向けて準備を着実に実施。

(2) データベース連結の推進

- ・ 医療情報の各種データベース事業の拡充・相互利用に向けて**研究事業を実施**。

2. 診療報酬改定によるICT推進

- ICTによる**技術革新**や**医療の質の向上**への取組を診療報酬で**適切に評価**。

(1) ICTを活用した情報共有・連携を促進

- ・ 医療機関間で検査結果・画像情報等を電子的に提供した場合に、**送信者・受信者双方に加算**。



(2) 遠隔モニタリングの評価

- ・ 遠隔で行う心臓ペースメーカーの指導管理について、**遠隔指導を行った月数に応じて評価を上乗せ**。

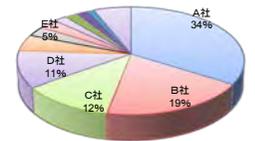
3. 次世代医療ICTの推進

- 次世代医療ICTを推進するため、「**保健医療分野のICT活用推進懇談会**」を昨年11月に設置。
- 医療情報の**共通インフラ**や**プラットフォーム**を整備。医療連携を推進するとともに、**産官学が一体となった**研究開発や**新規サービス創出**を促進し、ICTを活用した**新たな保健医療システム**を実現。

具体的な方向性

- ◆ 医療等IDを2020年までに整備。電子カルテ・データの**標準化**を進め、データの共有・収集・分析を促進。

※ 電子カルテのシェア



- ◆ 患者の医療情報をデジタル化し、医療関係者と共有できる**全国規模ネットワーク化**を促進。
(医療の必要性が高い障害者等が安心して救急医療を受けられるためのシステム 等)



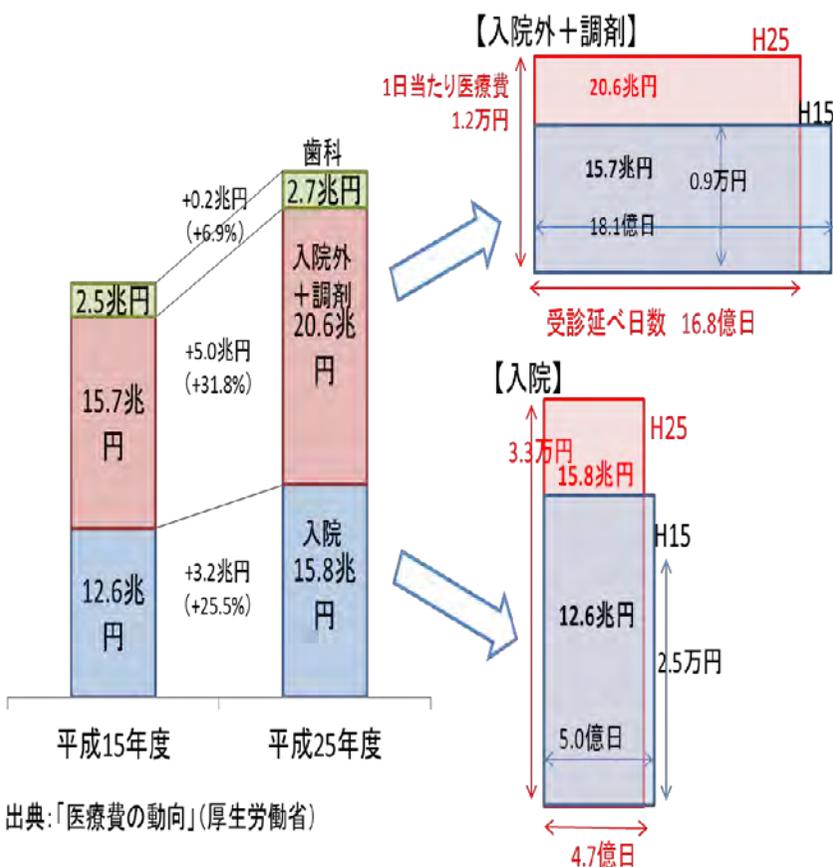
- ◆ 国等の**データベースの連結**を進めるとともに、研究機関をはじめとした様々な主体が新たな価値を創出できるようデータの提供や利活用を拡大。

医療費・介護費の分析

- 医療費・介護費の伸びの要因を分析し、医療費・介護費全体の伸びの抑制を図っていくことが重要。
- 入院・外来の受診動向、単価の動向や、医療費・介護費の地域差の現状について、一定の分析・見える化を実施した。
- これに基づき、地域差の縮小等、さらなる伸びの抑制に取り組んでいくことを検討。
- 医療・介護は密接に関連するものであることを踏まえ、双方を結び付けて分析していく視点も重要。

医療費の伸びの構造

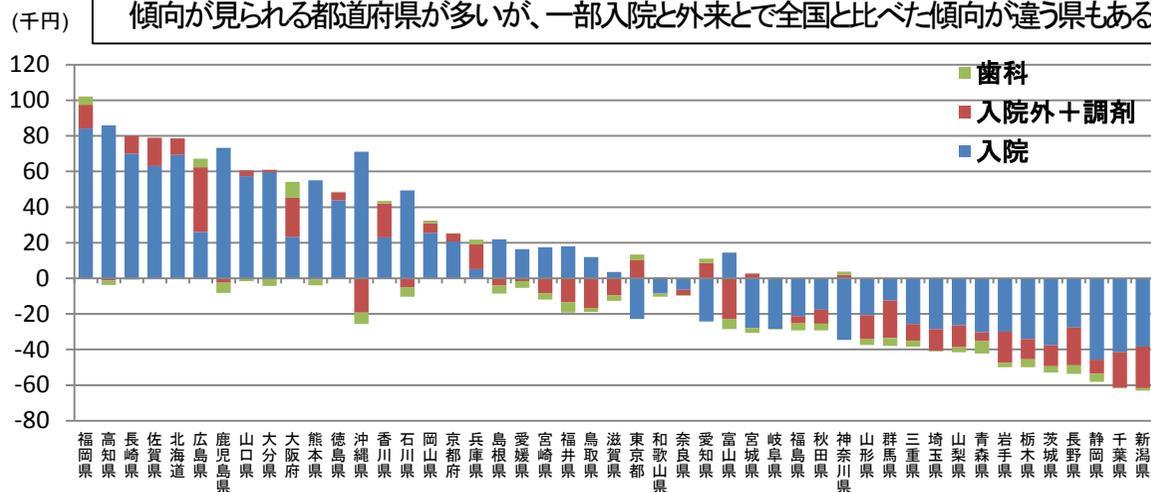
- 診療種別に医療費の伸びを見ると、入院・入院外共に増加。いずれも10年前と比べ、受診延べ日数は減少しているが、1日当たり医療費が増加していることにより総医療費が増加。



都道府県別年齢調整後1人当たり医療費の全国平均との差

※市町村国民健康保険+後期高齢者医療制度

- 1人当たり医療費(年齢調整後)の全国平均との差を見ると、入院と入院外とでは概ね同じ傾向が見られる都道府県が多いが、一部入院と外来とで全国と比べて傾向が違う県もある。



- 入院医療費の全国平均との差(年齢調整後)を主な傷病別に見ると、「循環器系の疾患」「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」などの寄与が大きい。

